

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475300693
法人名	工藤建設株式会社
事業所名	グループホーム フローレンスケアたかつ
訪問調査日	平成 21年 2 月 4 日
評価確定日	平成 21年 3 月 10 日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1475300693
法人名	工藤建設株式会社
事業所名	グループホーム フローレンスケアたかつ
所在地	神奈川県川崎市高津区久末1744番地2 (電話) 044-753-2317

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年2月4日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】(21年 1月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 9 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 14.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	37,000 円	
敷金	有(500,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(1 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1		名	要介護2	7 名	
要介護3	8 名		要介護4	3 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 82 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団山本記念病院、やまびこクリニック、鳥居歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・現在地下鉄グリーンラインの高田駅からバスで10分、徒歩8分の静かな住宅街に位置する当事業所は、平成15年12月に開設された。1階には同法人のデイサービスを併設しており、屋内は広々として明るく清潔で、バリアフリーが徹底している。 ・運営法人は、グループホームを始め、有料老人ホームやデイサービスを経営の柱にした総合生活産業に属し、グループホームは地域に根ざした運営を目指している。 ・入居者は、畑でさつまいもやなすの収穫を楽しみ、また、草花の生育を観察したり樹木を見て季節を感じることができる。事業所は、入居者の自立支援を最優先に、趣味や特技を活かし安心してメリハリのある生活ができるように支援している。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の外部評価での指摘事項である、「災害に備え非常食、飲料水などの備蓄」については、改善されていることを確認した。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、評価の意義やねらいを職員に説明し、職員が自己評価を行い、結果をユニットリーダーを中心に職員全員で話し合っ管理者がとりまとめた。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は2か月に1回定期的に開催している。委員には入居者・家族代表、地域住民の代表、地域包括センター長、運営法人代表が参加している。 ・会議では事業所が、運営状況や行事内容について説明し、出席者からの意見や要望を話し合った。地域行事への参加について地域の理解と支援を得る貴重な会議となっている。
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所時に入居者の家庭を訪問して面談し、本人や家族の要望や意見を聞き、安心して入居できるように配慮している。家族からは面会時や、年2回開催する家族懇談会で意見や要望を聞き、運営に反映するように努めている。 ・苦情や相談窓口は重要事項説明書に明記し、迅速な対応に心がけている。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入しており、町内の掃除やどんど焼きに参加し、また、地域住民の協力を得て事業所の納涼祭や餅つき大会を開催している。広報紙「いつでも夢を」を久末町内会に回覧して、地域住民との結びつきを大切にしている。 ・散歩時には地域の方と挨拶を交わし、ふれあいを楽しみながら暮らしている。地域のボランティアの訪問を受けフラダンス、詩吟など、音楽や踊りを一緒に楽しんでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・運営法人の理念である、「思いやりの心と確かな介護技術で介護高齢者の明るい未来」を、事業所の共通の理念として掲げている。 ・職員は入居者の尊厳を守り、自由を尊重し、地域社会に貢献することを事業所運営の大切な方針としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念や方針は、玄関フロアーや事務室に掲示し、毎日朝礼時に唱和し、職員の意識の共有化を図っている。 ・管理者は、新入職員の研修時には、理念について説明し、理解を深めるように指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の一員として町内会に加入し、町内会主催の掃除や、どんど焼きに参加し、また、餅つき大会、納涼祭への参加を地域に呼びかけ地域との交流を深めている。 ・散歩の際に近隣の人と気軽に声を掛け合い、ふれあいを持ちながら暮らしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者は評価の意義やねらいを職員に説明し、職員が自己評価を行い、ユニットリーダーを中心に職員全員で話し合い、管理者がとりまとめた。 ・前回の外部評価は、災害時の非常食の備蓄が課題となっていたが改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は2か月に1回定期的開催している。入居者・家族代表、地域住民代表、地域包括センター長、運営法人代表が参加している。 ・会議では事業所の運営状況や行事内容について説明し、意見や要望を話し合い、地域行事の参加について、地域の理解と支援を得る貴重な会議となっている。		

フローレンスケアたかつ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・管理者は、川崎市介護保険課へ事業所の運営や現場の実情、業務上の問題点などを報告し、助言や指導を仰いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・家族の来訪時に入居者の状況を詳細に説明している。体調悪化時や急変時には、電話にて報告している。 ・ホーム便り「ほほえみ」を毎月発行し、デイサービスと共通の広報誌「いつでも夢を」でも、行事の内容や利用者の生活ぶりを家族に伝えている。 ・小口現金は立て替え払いし後日清算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情や相談窓口は重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。家族の来訪時には、意見や要望を聞くように努めている。 ・2か月毎に開催する運営推進会議や半年1回の家族懇談会でも意見や要望を聞き、運営面に反映するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・入居者との馴染みの関係を重視し、職員の異動を最小限に抑え、入居者や家族に不安を与えないように努めている。 ・管理者とリーダーは、職員の思いを受け止めるように気配りし、職場内の風通しをよくし、良好な人間関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・運営法人の研修計画により、職員は入社時研修、6か月研修、一般職員向け研修を受講している。 ・職員研修や全体研修で倫理規定、守秘義務、苦情対応の仕方を学び、研修報告書を作成して、全体会議で発表し、また伝達研修し職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・社団法人かながわ福祉サービス振興会や神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に参加し、日頃のサービスや職員の確保などの情報を交換し、同業者と交流している。 ・連絡会の内容を職員にフィードバックし、日々のサービスや職員育成に役立てるように心掛けている。		

フローレンスケアたかつ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 入居前に管理者やユニットリーダーは、必要に応じて自宅を訪問し、入居者・家族と十分に話し合い、生活状況や生活歴、身体状況などを確認している。本人・家族は事業所を見学し、サービス内容を把握した上で入居を決めている。 入居者の要望に応じ、居室に空きがあれば2日程の体験入所を行い、徐々に馴染みながら利用してもらっている。 		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活上のできることは、職員と一緒に本人にもしてもらっている。職員は入居者を人生の先輩として、尊敬の念を持ってかわり支えあっている。 配膳の際、お盆の主食と副食の配置、おかずの置き方などを職員は入居者に教えて貰っている。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> 職員は入居者との日々の生活の中で、一人ひとりの意向や希望を行動や表情の中から汲み取り、ケアプランに反映するように努めている。 		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画書は入所前のアセスメントで入居者の生活歴、生活環境、嗜好、趣味などを把握し、モニタリングを行い、サービス担当者会議でケアプランを作成している。 家族の来訪時にケアプランについて説明し、話し合っ同意の署名を貰っている。 		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画書は、利用者の状況が安定しているときは3か月毎に見直している。 入居者や家族に状態の変化があった時には、本人・家族の要望を聞き、現状に即した計画の見直しを随時行っている。 		

フローレンスケアたかつ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・協力医療機関の内科医が月2回訪問診療し、入居者は医療処置を受けることができる。歯科医は入居者の要望に応じて随時、歯科治療や口腔ケアに当たり、年1回は歯科検診を受けている。 ・理美容は入居者の要望により月1回、運営法人の作業療法士はリハビリテーションにも来訪している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族が、かかりつけ医を継続して受診できるように支援している。特に希望がなければ、協力医療機関の内科医と歯科医の受診ができる体制となっている。 ・家族が通院介助ができない場合は要望に応じて、職員が行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入所時に入居者が重度化した場合や終末期における医療処置の対応について説明している。事業所では、介護でできることの限界を説明し、家族の理解を得ている。 ・入居者の急変時や重度化した場合、本人にとって最善の方法を家族と内科医、職員が話し合う体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・運営方針に「介護高齢者の尊厳を守る」ことを掲げ、職員は入居者本位のサービスを常に念頭におき、丁寧な態度、言葉づかいで接している。 ・職員は秘密保持やプライバシー保護について入職時に研修を受け、入居者の自尊心を損ねることがないように注意している。個人情報に関する書類は、施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・「散歩しますか」、「歌を歌いますか」など、選択肢を示しながらその日の過ごし方の希望を聞き、入居者の体調に配慮し可能な限り受け入れている。 ・気の合った入居者同士の歓談を見守ったり、散歩やテレビを見たりして一人ひとりの意思を尊重しながら支援している。		

フローレンスケアたかつ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の買い物から盛り付け、配膳、下膳などできることを手伝ってもらい、職員と一緒に準備しながら感謝の言葉をかけている。 ・入居者の食事の好き嫌いを把握して、偏食しないように配慮している。職員も同じ食卓を囲んで食事をしている。 		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の希望時間に合わせて入浴できるように対応している。入浴を嫌がる人には、それとなく声かけし、入浴を誘導している。入浴しない日は足浴も行っている。 ・入居者同士複数で入浴を楽しみたいという希望も、受け入れている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援を最優先に考え、一人ひとりの力量や希望を把握しながら得意な仕事や役割を見付けて、意欲的に取り組めるように支援している。 ・毎日の食材の注文を記入してもらって役割や、墨絵や習字の作品を居間に飾ったり、裁縫の特技を活かして、ボタンつけを教してもらったり感謝の言葉を伝えている。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの希望や運動能力を把握し、事業所の周辺を歩いたり、坂道のコースに行ったりして、ほぼ毎日個別に散歩に出かけている。 ・雨天でも車で買い物に出かけている。入居者と店内を回り、男性入居者に荷物運びの役割を担ってもらったこともある。 		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関ドアは夜以外は手動で開錠できるようにしており、居室は内部からは施錠できるようになっている。 ・各フロアは全体が見通せる設計になっており、職員は入居者の外出の要望にすぐに対応している。安全に配慮して2Fユニットの出入り口にセンサーを設置している。 		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画が策定され、地震、火災を想定した避難訓練を年2回実施して、訓練の反省を踏まえて次回の計画を立案している。 ・玄関横に簡易担架、AEDを用意して、緊急時に備えている。非常食や飲料水を備蓄している。 	○	運営委員会等の機会を利用して協力を要請し、防災・避難訓練を地域住民と連携して実施されることを期待します。

フローレンスケアたかつ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量は食事量チェック表に記録し、水分量は水分補給表に記録し一日に提供する量を把握している。 ・主治医と連携をとり、代替え食や、刻み食、ミキサー食を提供している。飲み物はコーヒーや紅茶など嗜好に合わせて選べるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者はリビングのテーブルやソファで談話したり、リクライニング椅子で一人でくつろいだり、思い思いに過ごしている。3か所のトイレは、常に換気に努め、不快な臭いはない。採光は遮光カーテンで調整している。 ・玄関には季節の花が生けてあり、入居者の墨絵の作品が季節感を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者は馴染みの使い慣れたタンスや仏壇を持ち込み、家族の写真を飾っている。ベッドや畳敷きに布団を敷いている入居者もあり、安心して過ごせるように工夫している。 ・入居者と職員と一緒に居室の窓を開放して掃除をし、換気を行って快適に過ごせるようにしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
(ユニット名)	1階 Aユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市高津区久末1744-2
記入者名 (管理者)	飯田 正子
記入日	平成 21 年 1 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業方針の中に「私たちは介護高齢者と地域社会に貢献します」を掲げている。		町内会の行事のなかで参加できる内容があれば積極的に参加している。(初詣・清掃・小学校との交流・買物など)
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に理念の唱和をし、全体会議の場などで、具体的に方針等を職員と共有している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月1回グループホームとしての広報紙「ほほえみ」発行。(家族のみ)また、隔月でフローレンスケアたかつとしての広報紙「いつでも夢を」を久末町内会にも回覧している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物・回覧板届け等の際、近隣の方々と挨拶を交わし、庭の花や手作りの野菜などを頂くことがある。また、余暇活動の一環として施設行事などには協力を得ている。		外出時には積極的に挨拶・声掛けをし関係作りに努めている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の掃除等に参加したり、久末小学校との交流を図っている参加可能な行事に参加している。		

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症キャラバンメイトの研修を生かし、地域の方々に「認知症サポーター」を要請する講座を持ちたいと思っているが具体化されていない。	○	デイサービスと協力して地域の防災を考えて行きたい。介護教室などを開催し、認知症についての理解を広めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘を受けたことはすぐに改善策を考え実行しているが、昨年、指摘された災害時の備蓄物品等の保管場所を確保するなどハード面(建物)については家主と協議が必要となるため今後の課題である。	○	施設内の整理を行い、備蓄場所の確保を考えていく。また、必要に応じて家主と話し合いの場を設ける。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の提案・意見があればすぐに対応し、サービス向上に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担等との関係は少ない。 書面等で不明な点・運営上で確認したいときは電話問い合わせをしている程度である。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加し、職員に内容を説明している。 資料を整備している。		定期的に内部研修を行い、内容の理解を深めている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し、施設内でも虐待を起こさないよう意識付けを行っている。 資料をスタッフルームに置き身体チェック及び言葉の暴力がないか日々チェックしている	○	今後継続し、虐待防止に努めていく。 言葉による暴力など含めどんなことが虐待になるのかを常に意識化していく。

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明を行い契約書の読み合わせ説明を行っている。また、利用細則・料金表を提示し出来ること、出来ないこと 退去の要件等説明している。 契約者・身元引受人等からの質問に答えている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者・家族へアンケートを行ったり、日常的に管理者や計画作成担当等が利用者へ声掛けし様子を伺っている。 地域運営推進会議に利用者代表が参加し意見等述べている。また、家族面会時には直接意見の聞き取りをしている。</p>	○ 毎月発行している広報紙に投稿欄などを検討する。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「広報紙」を発行し日常の様子を報告している。 容態変化がある場合、速やかに電話連絡している。 毎月立替金預かり金明細を領収書を添付し身元引受人へ送付している。 不明な点あれば電話等うけ、状況の説明をしている。 家族訪問時に職員が声掛けし、日常の様子を説明している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>半年に1回家族懇談会を開催し、家族からの意見・要望を聞く機会を設けている。また、要望・意見は出来ることは対応している。 苦情相談窓口等の掲示をして、意見を言える環境を作っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回職員全員参加の元に会議を開催している。 毎月1回・及び適宜ユニット会議を開催している。 会議に運営者代表も参加している。 新規の受け入れの内容や、人事に関する情報等会議の場で常時説明報告している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>365日・24時間(早番・日勤・遅番・夜勤)4交代勤務で生活時間帯7:00-20:00は2~3人態勢で調整している。人員確保が困難な場合は募集広告や人材派遣を利用し人材確保している。</p>	怪我や病気で休みが出た場合、勤務変更や休日出勤をして調整しているが常に人員に余裕が無い状態である。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職を減らす取り組みとして職員間の風通しのよい関係作り、話し合いを中心に業務運営を行う方針とし実行している。 職員一人一人と日常的に会話し、必要時は面接を行い、職員の思いを受け止める努力を管理者またはリーダーは行っている。 異動・離職の場合は個々に説明を行っている。</p>	2階ユニットの職員・入居者とは行事やレクリエーションを一緒に行う場を多く持ちコミュニケーションを図っている。

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>高齢福祉センターからの研修案内や、外部研修あるいは定期的な内部研修を実施し研修の機会を提供している。常勤・非常勤の分け隔てはなく参加の機会を提供している。</p>	<p>同じ法人の他施設への見学・研修(実習)の実施を検討している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区内のケアマネ連絡会へ参加・神奈川県グループホーム連絡会総会・講習会等へ参加している。近所のグループホームからの問い合わせなど対応している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員に変化が見られたら声掛けし、様子を確認している。季節の折り目・入職者・退職者があったときなど全職員と交流を図っている。(慰労会・歓送迎会等の開催)夏季・冬季特別休暇を取得できる仕組みがある。</p>	<p>職員間での揉め事はユニット内で話し合いを持ち、早期に解決するよう心がけている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人面接を行い(不定期)本人の希望・目標を共有し実行・遂行できるように適宜声掛けしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家庭訪問を行い、本人・家族と面談を行っている。その際、本人の希望・生活課題・自分のことなど話を伺い、安心感を持ってもらうよう対応している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家庭訪問を行い、家族及び介護者からの日々の状況や家族との関係等や家族の希望など聴き取っている。</p>	

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り対応できるように努めている。 時間が必要なときは説明理解を得るよう努めている。 サービス提供が困難な場合は出来る限り他のサービスを紹介し選択できるようアドバイスしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、他の入居者との関係づくりを大事にし、その場に抵抗なく馴染める雰囲気づくりを心がけている。 (話し相手を見つける・食事席の工夫など) 出来るだけ家族の訪問をお願いしている。		帰宅願望や不穏な状態に陥らないよう精神面の支援に心がけ、安心で快適に過ごせるよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ自分でやれることはやっていただき、職員は常に声掛け見守りを中心にかかわりを持つよう対応している。 必要な部分には介助し、また人として教わる部分は吸収していく関係を作っている。		職員の中に個人差があるので、全職員が喜怒哀楽を共に出来るよう教育している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問回数の多い家族との関係はよく出来ている。 訪問回数の少ない家族との関係づくりは定期的な日々の様子の報告をまめに行い、関係を作っていくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各行事やイベントへの家族の参加を呼びかけ交流がもてるように計画を立てている。 家族の関わりとして受診や、外食などの負担にならないよう配慮しお願いできるところは依頼している。 毎月の広報紙により普段の様子を報告している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人差があり生活地域ではない入居者には難しいのが現状であるが、友人・知人の訪問時など話しを聞いたりしている。	○	家族と協力して少しでも馴染みの環境・関係を維持していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の生活状態の中から様子観察しみんなで仲良く暮らせるよう入居者同士のかかわりを大事に支援していく。 入居者間の間に入りスタッフが会話の内容を伝えるなどしている。		レクリエーションや家事等、一緒に楽しんで行える場を作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養等に入所されてもご家族は変わらずボランティアに来ていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やケアプラン検討時から本人・家族の意向など聞き取っている。 ユニット会議・サービス担当者会議を開催し情報の共有化を通し本人の希望・意向に添えるよう工夫している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを通し生育・生活歴・生活環境・嗜好・趣味などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録の閲覧や各チェック表等を確認している。 サービス担当者会議等で総合的な現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当の作成するケアプランを基本とし、より具体化するため居室担当者による個別援助計画書を作成し、入居者主体の計画書の作成に努めているが見直しが生じ、プラン変更があっても以前の計画書が変更されていないことがある。	○	ケアプラン→個別援助計画書→モニタリング→ケアプランの流れをさらに充実していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	多忙なため書類の作成が後になってしまうこともあるが、実際には変化が生じた時点で関係者(本人・家族・スタッフ)と話し合いをし計画書を変更しているが計画作成者と介護職員の兼任のため計画作成の時間をゆっくりとることが出来ない。	○	計画書の作成が遅くならないよう努力していく。 (計画書作成のための時間の確保)

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をパソコンに入力しスタッフはいつでも記録が読め、情報を共有できるシステムがある。		計画書に沿ったケアの実践は出来ているが、その記録は充分ではないので、管理者が記録を確認し指導を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来るところで柔軟に対応している。		グループホームの生活が困難となったら本人・家族が安心できるよう必要な機関・施設等へ紹介している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練や緊急時対応の指導等は高津消防署に協力を依頼している。また、久末小学校の職業体験学習や生涯学習の協力をしている。その他、必要に応じて協力を得ている。	○	今後さらに充実を図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネ連絡会等に参加している。徘徊SOSネットワークなどの利用を家族に紹介している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議への出席を通し、地域包括支援センターと協働している。		必要なときはアドバイスなど受けている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向による医療機関と連携を図っている。協力医療機関と・本人及び家族との契約関係が成立している。家族対応困難時は家族の依頼を受け通院介助を実施している。受診結果は即日電話連絡している。		

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族・主治医と連携を図り相談をしながら職員へ周知徹底をする。終末期ケアの経験の無い職員が多くメンタル面に心配があるため、職員への精神的支援も必要だと考えている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>看護師の配置など今後の課題である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ユニット会議を中心にサービス向上に取り組んでいる。スタッフ間で注意できる関係づくりに励んでいる。	○ 居室への出入りや入浴・排泄などプライバシーに十二分に意識して対応したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意向を第一に考えた声掛けをしている。たとえば今日は散歩に出かけられますか？など本人の意思決定を尊重している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況に沿った一日を過ごしてもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を利用しているが、近所へ出かけた方は送迎も可能である。ご家族と行きつけの美容室へ出かける場合もある。	起床時の整髪や髭剃りが出来るように準備し声かけている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・調理・片付け・買物など一人ひとりできることを職員と行っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は好みを聞き、好きなものを摂っていただいている。タバコに関しては施設内では禁煙としている。施設外においてはスタッフが同行し喫煙することとしている。現在喫煙者はいない。	飲酒の希望者はいないが、以前に嗜んだ方へは正月のおとそや家族参加の行事の際にワインやビールを提供している。

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な排泄への声掛けはするが、本人の意向に合わせて排泄介助している。 ウォシュレット・ホットタオルの使用など気持ちよく排泄できる取り組みを工夫している。		排泄パターンを把握し、誘導により紙パンツから綿の下着と尿取りパットに変更することができた。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声掛けをし意思を確認している。 入居者同士で入浴を楽しむときもある。また、入浴しない方へか足浴を用意している。	○	お風呂嫌いの入居者には身体の清潔が保てるように清拭やドライシャンプーなどによる清潔保持の工夫を検討する必要がある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的な生活時間「食事・入浴」以外好きな時間に居室で休息が取れる環境にあり、それぞれ好きなように休まれている。		馴染みの家具や寝具等で環境作りをし、安心して休めるようにしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課に積極的に参加していただき、自分の身の回りについてはできるだけ行ってもらっている。 仕事をすることに意欲的である。		レクリエーションや日常の家事、行事等を考慮し、本人の得意なことを楽しんで行えるよう見守りながら支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や外出したときは本人はお財布を所持して支払ってもらう取り組みをしている。 日常の管理は施設管理の方が多く、個人で管理される方は少数である。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日に一度は戸外に出ることをも目標にしている。 買物(食材の調達)に毎日出かけるようにしている。		歩行訓練も兼ね、散歩の習慣は継続している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回はドライブに出かける機会を作っている。 年1回はバス旅行を実施している。家族の参加も募っている。	○	歩行の程度や交通手段の問題もあり行ける範囲が限られてしまうが、旅行などの希望に沿った支援が出来るように努めたい。

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の折々に絵手紙を家族や知人に送るようにしている。電話は掛けたいときに取り次いでいる。		電話をかける、賀状の表書きをするなど、出来ないところを支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間・曜日の面会制限はなく常識の範囲で訪問していただいている。(施設としての制限はない)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為の理解に努め、日常のケアにおいて身体拘束を行わないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間20:00-翌朝6:30玄関の鍵は施錠しているが、それ以外には手動で玄関ドアは開閉できる状態である。フロアからの出入りは充分に見守りをおこない、危険を察知したらさりげなく声を掛ける対応をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	オープンキッチンでフロア内が一目で見渡せる設備であるが、常に一人ひとりの所在確認が必要であり、居室内の安否確認の必要もある。定期的な見回りを行っている。		所在確認・安全確認は常に心がけており、入居者に応じた配慮をしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・洗剤等の管理場所については鍵のかかるところとの指摘を受け現在鍵のかかる場所にて保管中。		調理などで包丁等を使う際は職員がそばにつき、危険の無いよう細心の注意を払っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告があった場合すぐ検討会を開き再発防止に努めている。マニュアルを作成し事故防止に努めている。		

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDの使用方法の指導や職員会議等で話し合いはもたれている。また、緊急時マニュアルはいつでも閲覧できるようにステーションに置いてある。	○	定期的に行えていない。今後実施できるように計画していく。
71	0災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。昨年は地震を想定した訓練も行ったが、夜間を想定した訓練にも取り組んでいきたい。	○	近隣の方々の協力と地震や水害時の避難については今後の検討課題である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	担当者会議を開催し起こり得るリスクを把握している。ケアプランに記載し家族への説明をしている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日に1回は必ずバイタルチェックを行い記録している。様子変化が感じられたら計画作成担当・ホーム長へ報告し必要に応じて主治医への報告・指示に従っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを個人別につづり、スタッフはいつでも誰でも閲覧できるようになっている。薬配薬箱には一目でわかるようにセットされており、幾人かのスタッフが確認できるようにしている。服薬の変更があった場合家族へ説明している。	○	研修等で薬についての知識や誤薬の危険性を学ぶ。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルト・フルーツ食物繊維をできるだけ摂取できるようメニューを考えている。散歩を日課とし運動不足にならないよう活動を組んでいる。		排泄が自立の入居者には排便の有無をさりげなく確認したり、トイレ使用の頻度を観察している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアを行っている。年に1回は歯科医師による検診を行っている。		

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事摂取量の確認をしている。また、水分摂取確認の必要な方は水分量確認も行っている。献立作成時はエネルギー・成分表などを参考に栄養バランスを考え入居者の意見も取り入れ検討している。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>緊急対応時の連絡体制により対応する。各マニュアルに基づき適宜研修等実施している。(朝礼・会議等で意識付けをしている)時期ごとに本社から通達される。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>日常的に食器の殺菌・調理用具の殺菌を実施している。冷蔵庫内の点検を行っている。1日～2日の期間でスーパーから食材を届けてもらい冷蔵庫・冷凍庫で保存している。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関・施設周りに花壇を作り明るい雰囲気づくりを工夫している。玄関の扉は日中は自由に開閉できるようにしている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各室馴染みの家具やベットなど持込んでもらい、入り口には個人別の特徴を出すよう工夫している。共用部分にはテーブル・リクライニングの椅子を置き快適な空間作りを工夫している。遮光カーテンの使用・季節の花などを飾り楽しんでいる。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングのソファ・食堂のテーブル・廊下のソファなど工夫している。入居者同士で会話したり歌を歌い過ごされている。</p>	

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居者本人・家族の意向のままにセットされている。 安心できる空間となっている 好きなものを飾り、使用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンはこまめに確認し、室温調整をしている。 1日に1回午前中の掃除の際、全居室の窓と入口を開け放し空気の入替えをおこなっている。また、トイレは常時換気扇をつけ、臭気が残らないようにしている。 窓の開閉を自由に換気には気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能の変化が見られたら、見守りしやすいように居室内の配置を検討し本人・家族にも説明了解を得ている。フロアやトイレ・浴室に手すりを設置し安全に配慮している。 台所はオープンで誰もが入れようになっている。また、冷蔵庫等も適宜個人で使用できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室・トイレ・浴室など目でわかる工夫・自分の居室がわかるように名前以外にも好きな趣味などの絵をはったりして工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関からスロープがあり、段差の解消に努めている。 花壇・家庭菜園の場所を作り、周囲の景色を楽しみながら外気浴できるよう戸外に椅子やテーブルを用意している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

フローレンスケアたかつ 1階Aユニット

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・一人ひとりの持てる力「生きる力」を最大限に生かして、入居者自身の生活を実感していただけるように支援していくことに取り組んでいる。
- ・やってあげる介護でなく、自分でできる（やれる）実感を引き出す介護を目指している。
- ・メリハリのある1日を過ごす入居者の生活作りの支援をする。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
(ユニット名)	2階 Bユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市高津区久末1744-2
記入者名 (管理者)	飯田 正子
記入日	平成 21 年 1 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業方針の中に「私たちは介護高齢者と地域社会に貢献します」を掲げている。	○	地域での行事(祭り・バザー等)に参加していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に理念の唱和をし、全体会議の場などで、具体的に方針等を職員と共有している。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月1回グループホームとしての広報紙「ほほえみ」発行。(家族のみ)また、隔月でフローレンスケアたかつとしての広報紙「いつでも夢を」を久末町内会にも回覧している。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物・回覧板届け等の際、近隣の方々と挨拶を交わし、庭の花や手作りの野菜などを頂くことがある。また、余暇活動の一環として施設行事などには協力を得ている。		外出時には積極的に挨拶・声掛けをし気軽に施設に立ち寄ってもらえるよう関係作りに努めている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の掃除等に参加したり、久末小学校との交流を図っている参加可能な行事に参加している。		地域での行事に参加するにあたって安全面の配慮やスケジュールの調整など、事前に計画書を作成し職員が内容を把握している。

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症キャラバンメイトの研修を生かし、地域の方々に「認知症サポーター」を要請する講座を持ちたいと思っているが具体化されていない。	○	デイサービスと協力して地域の防災を考えて行きたい。介護教室などを開催し、認知症についての理解を広めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘を受けたことはすぐに改善策を考え実行しているが、昨年、指摘された災害時の備蓄物品等の保管場所を確保するなどハード面(建物)については家主と協議が必要となるため今後の課題である。	○	施設内の整理を行い、備蓄場所の確保を考えていく。また、必要に応じて家主と話し合いの場を設ける。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の提案・意見があればすぐに対応し、サービス向上に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担等との関係は少ない。 書面等で不明な点・運営上で確認したいときは電話問い合わせをしている程度である。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加し、職員に内容を説明している。 資料を整備している。		定期的に内部研修を行い、内容の理解を深めている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し、施設内でも虐待を起こさないよう意識付けを行っている。 資料をスタッフルームに置き身体チェック及び言葉の暴力がないか日々チェックしている	○	今後継続し、虐待防止に努めていく。 どんなことが虐待になるのかを常に意識化していく。

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明を行い契約書の読み合わせ説明を行っている。また、利用細則・料金表を提示し出来ること、出来ないこと 退去の要件等説明している。 契約者・身元引受人等からの質問に答えている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族へアンケートを行ったり、日常的に管理者や計画作成担当等が利用者に声掛けし様子を伺っている。 地域運営推進会議に利用者代表が参加し意見等述べている。また、家族面会時には直接意見の聞き取りをしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「広報紙」を発行し日常の様子を報告している。 容態変化がある場合、速やかに電話連絡している。 毎月立替金預かり金明細を領収書を添付し身元引受人へ送付している。 不明な点あれば電話等うけ、状況の説明をしている。 家族訪問時に職員が声掛けし、日常の様子を説明している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に1回家族懇談会を開催し、家族からの意見・要望を聞く機会を設けている。また、要望・意見は出来ることは対応している。 苦情相談窓口等の掲示をして、意見を言える環境を作っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員全員参加の元に会議を開催している。 毎月1回・及び適宜ユニット会議を開催している。 会議に運営者代表も参加している。 新規の受け入れの内容や、人事に関する情報等会議の場で常時説明報告している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	365日・24時間(早番・日勤・遅番・夜勤)4交代勤務で生活時間帯7:00-20:00は2~3人態勢で調整している。人員確保が困難な場合は募集広告や人材派遣を利用し人材確保している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を減らす取り組みとして職員間の風通しのよい関係作り、話し合いを中心に業務運営を行う方針とし実行している。 職員一人一人と日常的に会話し、必要時は面接を行い、職員の思いを受け止める努力を管理者またはリーダーは行っている。 異動・離職の場合は個々に説明を行っている。	ユニット間の異動も踏まえて、入居者が馴染みを感じられるよう日頃から違うユニットの職員と交流を図っている。

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>高齢福祉センターからの研修案内や、外部研修あるいは定期的な内部研修を実施し研修の機会を提供している。常勤・非常勤の分け隔てはなく参加の機会を提供している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区内のケアマネ連絡会へ参加・神奈川県グループホーム連絡会総会・講習会等へ参加している。近所のグループホームからの問い合わせなど対応している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員に変化が見られたら声掛けし、様子を確認している。季節の折り目・入職者・退職者があったときなど全職員と交流を図っている。(慰労会・歓送迎会等の開催)夏季・冬季特別休暇を取得できる仕組みがある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人面接を行い(不定期)本人の希望・目標を共有し実行・遂行できるように適宜声掛けしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家庭訪問を行い、本人・家族と面談を行っている。その際、本人の希望・生活課題・自分のことなど話を伺い、安心感を持ってもらうよう対応している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家庭訪問を行い、家族及び介護者からの日々の状況や家族との関係等や家族の希望など聴き取っている。</p>	

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り対応できるように努めている。 時間が必要なときは説明理解を得るよう努めている。 サービス提供が困難な場合は出来る限り他のサービスを紹介し選択できるようアドバイスしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、他の入居者との関係づくりを大事にし、その場に抵抗なく馴染める雰囲気づくりを心がけている。 (話し相手を見つける・食事席の工夫など) 出来るだけ家族の訪問をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ自分でやれることはやっていただき、職員は常に声掛け見守りを中心にかかわりを持つよう対応している。 必要な部分には介助し、また人として教わる部分は吸収していく関係を作っている。		職員の中に個人差があるので、全職員が喜怒哀楽を共に出来るよう教育している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問回数の多い家族との関係はよく出来ている。 訪問回数の少ない家族との関係づくりは定期的な日々の様子の報告をまめに言い、関係を作っていくようにしている。		面会時は、家族・本人・職員が揃って話せる場を作っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各行事やイベントへの家族の参加を呼びかけ交流がもてるように計画を立てている。 家族の関わりとして受診や、外食などの負担にならないよう配慮しお願いできるところは依頼している。 毎月の広報紙により普段の様子を報告している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人差があり生活地域ではない入居者には難しいのが現状であるが、友人・知人の訪問時など話しを聞いたりしている。	○	家族と協力して少しでも馴染みの環境・関係を維持していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の生活状態の中から様子観察しみんなで仲良く暮らせるよう入居者同士のかかわりを大事に支援している。 入居者間の間に入りスタッフが会話の内容を伝えるなどしている。		意思疎通が難しかったり耳が遠い入居者は誤解がトラブルを引き起こすため職員が間に入ることで未然に防いでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養等に入所されてもご家族は変わらずボランティアに来ていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やケアプラン検討時から本人・家族の意向など聞き取っている。 ユニット会議・サービス担当者会議を開催し情報の共有化を通し本人の希望・意向に添えるよう工夫している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを通し生育・生活歴・生活環境・嗜好・趣味などの把握に努めている。		本人や家族との会話の中から見えてくるものが多いため、日常会話や雑誌(昭和史)などを使い会話を広げている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録の閲覧や各チェック表等を確認している。 サービス担当者会議等で総合的な現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当の作成するケアプランを基本とし、より具体化するため居室担当者による個別援助計画書を作成し、入居者主体の計画書の作成に努めているが見直しが生じ、プラン変更があっても以前の計画書が変更されていないことがある。	○	ケアプラン→個別援助計画書→モニタリング→ケアプランの流れをさらに充実していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	多忙なため書類の作成が後になってしまうこともあるが、実際には変化が生じた時点で関係者(本人・家族・スタッフ)と話し合いをし計画書を変更しているが計画作成者と介護職員の兼任のため計画作成の時間をゆっくりとることが出来ない。	○	計画書の作成が遅くならないよう努力していく。 (計画書作成のための時間の確保)

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をパソコンに入力しスタッフはいつでも記録が読め、情報を共有できるシステムがある。		計画書に沿ったケアの実践は出来ているが、その記録は充分ではないので、管理者が記録を確認し指導を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来るところで柔軟に対応している。		グループホームの生活が困難となったら本人・家族が安心できるよう必要な機関・施設等へ紹介している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練や緊急時対応の指導等は高津消防署に協力を依頼している。また、久末小学校の職業体験学習や生涯学習の協力をしている。その他、必要に応じて協力を得ている。	○	今後さらに充実を図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネ連絡会等に参加している。徘徊SOSネットワークなどの利用を家族に紹介している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議への出席を通し、地域包括支援センターと協働している。		必要なときはアドバイスなど受けている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向による医療機関と連携を図っている。協力医療機関と・本人及び家族との契約関係が成立している。家族対応困難時は家族の依頼を受け通院介助を実施している。受診結果は即日電話連絡している。		

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>同じ事業所の看護師であるため、気軽に相談や質問ができる。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>現在、対象者となり得る入居者がいる。家族・主治医と連携を図り相談をしながら職員へ周知しているが、終末期ケアの経験の無い職員が多くメンタル面に心配があるため、職員への精神的支援も必要だと考えている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>看護師の配置など今後の課題である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ユニット会議を中心にサービス向上に取り組んでいる。スタッフ間で注意できる関係づくりに励んでいる。	○ 居室への出入りや入浴・排泄などプライバシーに配慮し、言葉遣い等、意識して対応したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意向を第一に考えた声掛けをしている。たとえば今日は散歩に出かけられますか？など本人の意思決定を尊重している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況に沿った一日を過ごしてもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を利用しているが、近所へ出かけた方は送迎も可能である。ご家族と行きつけの美容室へ出かける場合もある。	女性には化粧やアクセサリーで飾れるよう声を掛け、男性には毎朝、電気シェーバーを手渡しご自分で整容出来るように働きかけている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・調理・片付け・買物など一人ひとりできることを職員と行っていたいでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は好みを聞き、好きなものを摂っていただいている。タバコに関しては施設内では禁煙としている。施設外においてはスタッフが同行し喫煙することとしている。現在、喫煙者はいない。	飲酒の希望者はいないが、以前に嗜んだ方へは正月のおとそや家族参加の行事の際にワインやビールを提供している。

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な排泄への声掛けはするが、本人の意向に合わせて排泄介助している。 ウォシュレット・ホットタオルの使用など気持ちよく排泄できる取り組みを工夫している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声掛けをし意思を確認している。 入居者同士で入浴を楽しむときもある。また、入浴しない方へか足浴を用意している。	○	お風呂嫌いの入居者には身体の清潔が保てるように清拭やドライシャンプーなどによる清潔保持の工夫を検討する必要がある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的な生活時間「食事・入浴」以外好きな時間に居室で休息が取れる環境にあり、それぞれ好きなように休まれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課に積極的に参加していただき、自分の身の回りについてはできるだけ行ってもらっている。 仕事をすることに意欲的である。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や外出したときは本人はお財布を所持して支払ってもらう取り組みをしている。 日常の管理は施設管理の方が多く、個人で管理される方は少数である。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日に一度は戸外に出ることをも目標にしている。 買物(食材の調達)に毎日出かけるようにしている。		雨の日以外は散歩を日課とし、季節感を味わっていただき気分転換を図っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回はドライブに出かける機会を作っている。 年1回はバス旅行を実施している。家族の参加も募っている。		昨年はクリスマスイルミネーションツアーやほとバス都内めぐりなどを実施した。

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の折々に絵手紙を家族や知人に送るようにしている。電話は掛けたいときに取り次いでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間・曜日の面会制限はなく常識の範囲で訪問していただいている。(施設としての制限はない)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為の理解に努め、日常のケアにおいて身体拘束を行わないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間20:00-翌朝6:30玄関の鍵は施錠しているが、それ以外には手動で玄関ドアは開閉できる状態である。フロアからの出入りは充分に見守りをおこない、危険を察知したらさざりげなく声を掛ける対応をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	オープンキッチンでフロア内が一目で見渡せる設備であるが、常に一人ひとりの所在確認が必要であり、居室内の安否確認の必要もある。定期的な見回りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・洗剤等の管理場所については鍵のかかるところとの指摘を受け現在鍵のかかる場所にて保管中。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告があった場合すぐ検討会を開き再発防止に努めている。 マニュアルを作成し事故防止に努めている。		

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDの使用法の指導や職員会議等で話し合いはもたれている。また、緊急時マニュアルはいつでも閲覧できるようにステーションに置いてある。	○	定期的に行えていない。今後実施できるように計画していく。
71	0 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。昨年は地震を想定した訓練も行ったが、夜間を想定した訓練にも取り組んでいきたい。	○	近隣の方々の協力と地震や水害時の避難については今後の検討課題である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	担当者会議を開催し起こり得るリスクを把握している。ケアプランに記載し家族への説明をしている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日に1回は必ずバイタルチェックを行い記録している。様子変化が感じられたら計画作成担当・ホーム長へ報告し必要に応じて主治医への報告・指示に従っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを個人別につづり、スタッフはいつでも誰でも閲覧できるようになっている。薬配薬箱には一目でわかるようにセットされており、幾人かのスタッフが確認できるようにしている。服薬の変更があった場合家族へ説明している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルト・フルーツ食物繊維をできるだけ摂取できるようメニューを考えている。散歩を日課とし運動不足にならないよう活動を組んでいる。		排泄が自立の入居者には排便の有無をさりげなく確認したり、トイレ使用の頻度を観察している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアを行っている。年に1回は歯科医師による検診を行っている。		

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事摂取量の確認をしている。また、水分摂取確認の必要な方は水分量確認も行っている。献立作成時はエネルギー・成分表などを参考に栄養バランスを考え入居者の意見も取り入れ検討している。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>緊急対応時の連絡体制により対応する。各マニュアルに基づき適宜研修等実施している。(朝礼・会議等で意識付けをしている)時期ごとに本社から通達される。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>日常的に食器の殺菌・調理用具の殺菌を実施している。冷蔵庫内の点検を行っている。1日～2日の期間でスーパーから食材を届けてもらい冷蔵庫・冷凍庫で保存している。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関・施設周りに花壇を作り明るい雰囲気づくりを工夫している。玄関の扉は日中は自由に開閉できるようにしている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各室馴染みの家具やベットなど持込んでもらい、入り口には個人別の特徴を出すよう工夫している。共用部分にはテーブル・リクライニングの椅子を置き快適な空間作りを工夫している。遮光カーテンの使用・季節の花などを飾り楽しんでいる。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングのソファ・食堂のテーブル・廊下のソファなど工夫している。入居者同士で会話したり歌を歌い過ごされている。</p>	

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居者本人・家族の意向のままにセットされている。 安心できる空間となっている 好きなものを飾り、使用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンはこまめに確認し、室温調整をしている。 1日に1回午前中の掃除の際、全居室の窓と入口を開け放し空気の入替えをおこなっている。また、トイレは常時換気扇をつけ、臭気が残らないようにしている。 窓の開閉を自由に換気には気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能の変化が見られたら、見守りしやすいように居室内の配置を検討し本人・家族にも説明了解を得ている。フロアやトイレ・浴室に手すりを設置し安全に配慮している。 台所はオープンで誰もが入れようになっている。また、冷蔵庫等も適宜個人で使用できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室・トイレ・浴室など目でわかる工夫・自分の居室がわかるように名前以外にも好きな趣味などの絵をはったりして工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関からスロープがあり、段差の解消に努めている。 花壇・家庭菜園の場所を作り、周囲の景色を楽しみながら外気浴できるよう戸外に椅子やテーブルを用意している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

フローレンスケアたかつ 2階Bユニット

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・一人ひとりの持てる力「生きる力」を最大限に生かして、入居者自身の生活を実感していただけるように支援していくことに取り組んでいる。
- ・やってあげる介護でなく、自分でできる（やれる）実感を引き出す介護を目指している。
- ・メリハリのある1日を過ごす入居者の生活作りの支援をする。